

学校法人園田学園
園田学園女子大学短期大学部
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

園田学園女子大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 園田学園
理事長名	一谷 宣宏
学長名	今井 章子
ALO	川原崎 淑子
開設年月日	昭和38年4月1日
所在地	兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29番1号

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活文化学科		90
幼児教育学科		120
	合計	210

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

園田学園女子大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 19 年 7 月 5 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神である「社会に有用な専門的スキルを持つ女性の育成」を具現化した教育を行っている短期大学である。この建学の精神・教育理念は、学生、教職員に広く浸透している。教育目的・教育目標についても学科別に設定され、短期大学部長、学科長、クラス担任から学生に周知されている。

教育課程は、生活文化学科、幼児教育学科ともに、教育理念を踏まえて体系的に編成されている。授業科目は資格の取得に力点が置かれているが選択肢も提供されている。

学生による授業評価はアンケート調査だけでなく、「学生と教員による授業について話し合う会」を開催するなど授業改善への努力がされている。

教育の実施体制については、短期大学設置基準を上回っている。キャンパスもよく整備され、落ち着いた環境にある。図書館も蔵書数が十分に利用しやすくなっている。

学生支援体制が確立しており、学習支援活動では、基礎学力不足の学生に対して生活文化学科では個別指導・補習授業、幼児教育学科ではピアノ実技の個人指導を実施している。学生生活支援活動では、学生寮を完備し、学資支援貸与・支給、奨学金制度が設けられ、保健指導室と学生相談室の連携による健康管理体制も整っている。就職・進学のための支援活動も積極的に実施されている。

教員の研究活動については、専任教員には研究室が整備されており、全研究室に学内 LAN など情報機器が常設され、個人研究費も予算化されている。

社会的活動では開学以来「地域に開かれた大学」を標榜し、公開講座の開催を始め、学生をパソコンインストラクターとして派遣している。

管理運営面では、理事会・評議員会及び教授会・各委員会ともに定期的に開催され、管理運営体制は確立されている。理事長は、学校法人の運営について、学長は当該短期大学の管理運営とともにリーダーシップを発揮している。事務組織、事務処理などの規程も整備されている。

財務については、予算の立案、予算の執行などが適正に行われている。財務状況については、短期大学単独では健全化に向けて推移しているが、学校法人全体の財務体質の改善

に向けた努力・運営が期待される。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 今日まで培ってきた教育方法を「経験値教育」（知識を知恵に転換する教育）と名付け、その推進によって教育目的・教育目標の具現化を果たそうと努力している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 全教員と全学生が出席可能で自由に意見を交わすことができる「学生と教職員による授業について話し合う会」を設けている。授業について直接に意見を述べる機会が学生にとって貴重であり、学生の満足感を高めるためにも効果的であると考えられる。

また、「公開授業」は教職員、学生ともに自由に参加でき、特に教員にとって自らの授業を向上させるよい機会となる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館の本の選定にあたって、学生と教員が書店に同行して本を選ぶ「選書ツアー」が行われていることは、学生にとって有意義な機会である。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 受験者に対し、情報提供のため、要求があれば試験成績を開示している。
- クラブ活動は、併設大学と共通の活動が実施されている。また、学生の課外活動を応援するため、独自の表彰制度である「優秀課外活動賞」が設けられている。
- 毎年、大手企業研修所において「自己 PR 強化合宿」が実施され、就職支援に力を入れている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地元商店と共同して、実際の菓子商品「橘の珠依姫」開発が実現している。
- 近隣の県立高等学校との間に高大連携協定を結び、高校1年生の必修科目として、夏季休業期間前の1週間、大学生活を体験させている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善ができれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅸ 財務

- 短期大学の財務については健全化に向けて推移しているが、法人全体の財務改善に向けた努力が期待される。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価報告書の継続的な作成など、自己点検への活性化が期待される。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「地域の女子教育の振興」を目的に、旧園田村村長など在地の有志により「社会に有用な専門的スキルを持つ女性の育成」を建学の精神として創設された学園で、昭和38年に園田学園女子短期大学が設置された。

家庭科教員や栄養士資格の取得を目的とした教育課程を設置し、「豊かな教養と高度の専門性を持つ女性の育成」を教育理念とした。その後、幼稚園教員・保育士を養成する幼児教育学科と製菓衛生師の国家試験受験資格及び訪問介護員資格の取得を目指す生活文化学科を設置し現在に至っている。

建学の精神・教育理念については入学式、入学時オリエンテーションなどで詳しく説明されており、学生、教職員に広く浸透させている。教育目的・教育目標は、学科別に設定され、大学案内に明記されている。周知方法については全学オリエンテーション、学科別オリエンテーションにおいて短期大学部長、学科長、クラス担任から詳しく説明されており、確たる教育目的・教育目標をもって教育を行っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

生活文化学科、幼児教育学科ともに、教育課程には教育理念が反映され、女子学生にとってニーズの高いものとなっている。

授業科目は資格の取得に力点が置かれているが選択肢も提供されている。

教育改善の努力では、学生による授業評価アンケートの実施のみならず、「学生と教員による授業について話し合う会」が実施されている。

両学科とも、学生に多数の資格を付与するような教育課程が組まれている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

キャンパスは大学と共用であり、短期大学生は有形、無形の恩恵を受けている。

教員は意欲と熱意をもって教育活動に取り組み、学生一人ひとりを大切にした教育活動が展開されている。学生の意見が取り入れられる機会が設けられ、学生と教員の距離が近いことがうかがえる。

しかしながら、教員の仕事が教育活動、研究活動のほかに、実習関係の事務作業にも及んでおり、多忙を極めている。免許・資格の数、実習の多さから、この部門に専任の事務職員が配置されることが望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定の方法、単位の取得状況はおおむね適切であり、学生の満足度にも配慮している。また、学生の意見を直接聞き、反映される機会が設けられていることは評価できる。

学生の退学や休学の少なさから、教職員が学生一人ひとりを大切に、きめ細かな指導を行っていることがうかがえる。社会からの評価の高さは、就職状況が順調なことに表れている。

以上のことから、教育目標の達成と教育の効果については、教職員の努力が実っていることがうかがわれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

短期大学案内やウェブサイトには、教育理念・教育目標である「経験値教育」が明示され、この理念に基づく各学科の学生像が示されている。募集要項には、多様な選択方法が明確に記載され、アドミッション・オフィス（AO）入試を始め多様な入試が公正に処理され、入学手続者への情報提供から入学後のオリエンテーションに至るまで適切な入学支援が施されている。新入生には入学式後のオリエンテーションが、また、在学生にも学生便覧や履修モデル一覧の提供による履修指導が行われ、いずれもクラス担任・教務委員による適切な指導が実施されているといえる。クラブ活動は併設大学と共通の活動が実施されている。また、学生の課外活動を応援するため独自の表彰制度である「優秀課外活動賞」を設けるなど、学生生活支援も充実している。

就職支援では、キャリア支援課や就職委員会組織が学生への支援に努めており、大手企業研修所での「自己PR強化合宿」が毎年実施されるなど、就職支援にも力が注がれている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動には個人差が認められるものの、外部資金の調達については、科学研究費補助金の申請・採択が毎年されている。また、共同研究制度を設けている。さらに毎年、目標管理制度の中に教育活動、教育研究、学内活動を評価項目として設定し、教育研究の質の向上に向けた取り組みがされている。研究費支給については、教員一人あたりの図書

費・研究旅費が予算化されており、短期大学として十分な水準にあるといえる。また、機器備品が整備された個別の研究室があり、個人研究室（個室）は、助教以上の全専任教員に準備されている。全研究室に学内 LAN が引かれ情報機器が常設されている。また、研究日の取得方法についても配慮されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

併設四年制大学と共同し、「地域に開かれた大学」を掲げ、公開講座、地域活性化事業への参画を通じて、社会的活動を実施している。具体的な実績としては、「学びたい気持」を持つすべての人に対し、様々な学びの場を提供する公開講座を開講している。また、阪神淡路大震災後の復興活性化に際して、地元商店における商品開発への参画により、実際の菓子商品「橘の珠依姫」開発が実現していることがあげられる。さらに、情報メディアコースの学生をパソコンインストラクターとして派遣、地域高齢者との交流を盛んにし、「図解 尼崎の歴史」の電子化に向けた短期大学ゼミの活発な活動、周辺各市の教育委員会との協定のもと学生ボランティアを派遣しており、学生の社会的活動が促進されている。

近隣の高等学校との高大連携協定を結び、高校 1 年生必修科目として、夏期休業期間前 1 週間に大学生活を体験させ、この体験を入学後の単位認定とする計画を持つなど、積極的な交流が実施されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の管理運営に関わる諸規程も整備され、理事会も適切に運営されている。理事長が、大学・短期大学部の学長経験者であることから学内事情にも詳しくリーダーシップが発揮されている。

大学・短期大学部を含めた全学的な「評議会全学会議」により適切な運営がされている。また、大学の学長が短期大学部の学長を兼ねているため、両学校間で密接な連絡も行われている。また、教授会も有効に機能している。

事務組織は大学・短期大学部を併せて一元化されている。また、学生支援機能をワンフロアにまとめるなどして、学生サービスにも取り組んでいる。

就業規則も整備され、適正な人事管理が行われている。

評価領域Ⅸ 財務

中・長期計画に基づく関係部門とのヒアリング実施、伝達が実施されており、システム化された出納業務も円滑に実施されている。

各計算書類は、学校法人会計基準に準拠し適切に処理されている。一部、財務諸表から法人全体で支出超過が継続しているが、財務状況について理事会を含め、各関係部門も把握、認識している。その財務状況の是正に向け、理事会を中心に頻繁に討議され、財務体質の健全化に向けた取り組みも計画されている。

教育に必要な施設設備は、十分に整備され、維持管理もされている。

評価領域X 改革・改善

平成 18 年に自己点検・評価委員会の目的と組織を見直し、新たに「園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部自己点検・評価に関する規程」を設け、各学部長と事務局の長で構成する全学自己点検・評価委員会を設置している。自己点検・評価報告書の継続的な作成など、自己点検への活性化が期待される。